（表面）

**平成３０年度　東北大学等との連携による震災復興支援・災害科学研究推進活動サポート経費**

**要求書**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **事業名****（要求事項）** | 「民俗芸能」とコミュニティの単位 | 新規 |  |
| 継続 | 　　開始年度：平成２４年度 |
| **代表者** | 氏名（フリガナ） | メールアドレス |
| 梅屋　潔（ウメヤ　キヨシ） | umeya@people.kobe-u.ac.jp |
| 所属部等局名 | 職名等 |
| 国際文化学研究科 | 教授 |
| **組織構成者** | **学内****３名** | 氏　　名 | 所属部局・職名 | 役　割　分　担 |
| 岡田浩樹土取俊輝荒木真歩 | 国際文化学研究科・教授国際文化学研究科・博士後期国際文化学研究科・博士前期 | 副代表、連携事業との折衝現地調査、資料の整理・集約現地調査、資料の整理・集約 |
| **学外****４名** | 氏　　名 | 所属機関・部局・職名 | 役　割　分　担 |
| 川島秀一庄司幸男金菱　清川村清志 | 東北大学・災害科学国際研究所・元教授元気仙沼市教育委員会東北学院大学・教授国立歴史民俗博物館・准教授 | 民俗学、現地コーディネータ市民コーディネータ、現地調査環境社会学、関連事業との連携民俗学、現地調査 |
| **要求理由（概要・目的）** |
| １．概要　震災で失われたコミュニティの記憶の再構築の大きな手がかりとなるもののひとつが「民俗芸能」である。復興された祭礼、そしてそれに伴う「民俗芸能」の奉納などは、単に復興のシンボルにとどまらず、コミュニティの単位をしるしづけ、主体的に構成されるものである。このプロジェクトの関連事業による聞き取り資料の活字化は、現地に一定の影響を与え、地域活性化の議論を巻き起こしている。平成29年度からはそれに加え、コミュニティのボーダーになりうる「民俗芸能」の採譜と、中核を占める「身体技法」を主な伝承媒体として記録対象に加えるとともに、中心を気仙沼市内に特化して推進されている。平成30年度は市内に十以上の保存会が点在する「打ち囃子」に焦点化して事業を推進する。２．目的　この事業は、気仙沼市教育委員会の協力を得て、市内各地の「打ち囃子」を中心とする「民俗芸能」の採譜を通じてコミュニティの境界、交流、そして断絶を住民共々解明しようとする。地元の人々の手によって復活しつつある「民俗芸能」あるいは滅んでいく「民俗芸能・儀礼・祭礼」の復活・保存・記録に住民とともに関与し、復興事業にともに関わり、そのエンパワーメントに寄与しようとする。 |
| **計　画　・　方　法** |
| **計画**　昨年度の事業により、市内の「民俗芸能」のうち、芸態が類似していて広範囲に分布する「打ち囃子」を中心にして焦点化することが、教育委員会との申し合わせで決まった。昨年度の赤岩打ち囃子保存会に続いて、羽田、天神山など、市内の打ち囃子保存会の芸の記録を実施する。「保存会」の帰趨から①消滅したもの②復興前の姿にほぼ復帰したもの③その途上④震災前よりも活性化したもの⑤震災前はなかったが新たにつくり出されたものといった区別と、それぞれがその儀礼実践を支えるコミュニティの置かれた立場を解明する。また、平成29年度の事業において、伝統的でない、いわゆる「創作太鼓」系の団体にも、「伝統太鼓」系の「保存会」と関連をもつ事例が明らかになっているところから、コミュニティの活力ある実態をとらえるためには、計画から排除するべきではなく、その相互関係にも注目しながら事業を進めていく。**方法**　東北大学、東北学院大学、教育委員会、気仙沼文化協会などの協力を得て、当該の「保存会」の責任者を訪れ、震災の以前・以後の現状を詳細に聞き取り、芸能の細部について映像・画像などの媒体に保存する。東北大学他、行政や、地方のアクターと広く共有して検討することで広義のエンパワーメントを実現する。それぞれの「芸能」の伝承状況の記録を他地域のそれとの比較対照し、活動を振興する。文化庁や宝くじなど当該保存会などの取得可能な助成金の応募に協力もする。伝承音楽芸能の「採譜」「映像化」の他、多角的な角度からの記録保存を実施する。祭礼などの時期により、打ち囃子の活動時期は限定されているところから、個人保有のビデオなどを広く貸し出しをもとめることとし、調査事業の助けとしたい。 |
|  |
| （裏面） |
| **期待される具体的な効果･今後の展開** |
| **期待される具体的な効果**類型のなかでもっとも消極的な「①消滅した民俗芸能」であっても、当該の芸能のことをその担い手が想起するとき、コミュニティの構成員が強い帰属意識を喚起されることは、あちこちで体験的に報告されている。このことは、行政などの形式的な帰属集団を超えて、地域のエンパワーメントに寄与することが期待される。あつまった映像などの記録はそうしたコミュニティのエンパワーメントの起爆剤として、教育委員会などに保管されることになる。そうした記録媒体を材料としたコミュニティの再組織化、そしてアイデンティティ形成と再編成の様態もまた、復興のひとつのあり方をプロファイルすることができる。このことが地域の共有財産として高い価値を持っていることは論を待たない。**今後の展開**　昨年度掲げた目的は、非常に広域であり、幅広い対象を視野に入れていたが、実行可能性の観点から、今回は「打ち囃子」を中心に据えることとした。経費的なもの、マンパワーその他を考慮にいれてのことである。今後は、漸進的にその他の「民俗芸能」「民俗宗教」に拡大したい。これらがコミュニティのエンパワーメントの淵源であることは論を待たないが、行政が直接的にはもっとも手をつけにくいものでもあるからである。これらの事例の蓄積と、活動への協力は、復興に向かう地域振興にも資することは言うに及ばず、東北大学、東北学院大学、気仙沼市を含む、われわれ実施者と市民の地域およびコミュニティの認識を正確なものとし、今後の震災復興事業に対する処方箋のバリエーションを豊富にすることが期待される。この処方箋は、他地域にも応用可能な形に鍛錬可能なはずである。なお、本職は、当該地域とウガンダとのコミュニティとの交流事業を、トヨタ財団の協力で行ったことがある（2010年）。震災後は、被災地の関係者にウガンダからのビデオレターを届ける事業を本事業と並行して行っている。本年度は、日本学術振興会の二国間交流事業（長崎大学×ケープタウン大学、事業期間2年間のうち2年目）の経費によって、本事業と関連づけながら研究交流とコミュニティ交流を考えており、すでに行われている息の長い長期継続的なコミュニティ間交流に定点を一つ加える形での交流事業を実現する予定である。 |
| **平成29年度の成果および平成29年度と平成30年度の取組みの違い（※継続課題の場合のみ記載）** |
| 平成29年度の事業計画においては、中心となるテーマを「民俗宗教」とくに「民俗芸能」を対象として考えていたが、実際に現地で活動を開始してみると、これだけでは範囲が広範すぎることが、すぐに了解された。気仙沼市文化協会、気仙沼市教育委員会が把握している「民俗芸能」は、数の点でも対象が非常に多く、事業が有効に働きにくいため、現地との具体的な議論・調整の結果、平成29年の事業では、まずは「打ち囃子」に限定し、着手することとした。これは、現実的な選択であろうと考えているが、同時に、性質の異なるコミュニティを担い手としている点で、現地コミュニティ活性化事業としてはバランスのとれたものとなるに違いないと考えている。いずれにせよこの方向での事業の初発の選択肢としては、現実的なだけではなく理論的にも整合性があるものとなったと考えている。 |
| **経　費　使　用　内　訳　・　明　細** |
| 費　目 | 品　名 | 仕　様 | 単価（万円） | 数量 | 金　額（円） |
| 旅費・謝金 | 旅費（神戸⇔宮城）謝金現地コーディネート経費録音書きおこし、太鼓の採譜 |  | 96812 | 6101010 | **計** | **800000円** |
| 消耗品費 |  |  |  |  | **計** | **0円** |
| その他(会議費・諸経費等) |  |  |  |  | **計** | **0円** |
| **合　　計** | **800000円** |
| **他の事業等での予算獲得状況の有無（現在申請中も含む）** | **有** |  | **無** | **○** |
| ※「有」の場合，下記項目を記入してください |
| 募集機関名：　　　　　　　　事業名：　　　　　　　　　　 | 申請中 |  | 採択済 |  |